

目次

ごあいさつ	i
東京芸術大学百年史刊行にあたって	ii
まえがき	iv
凡例	vii
年譜——大正・昭和の東京音楽学校（大正元年～昭和二十七年三月）	一
第三章 大正・昭和の東京音楽学校	九
第一節 規則・カリキュラム・雑則の変遷	一一
一 規則・カリキュラム（明治四十二年～昭和二十四年三月）	一一
（一） 明治末	一一
（二） 大正年間	二六
（三） 昭和二年度～十年度	六三
（四） 昭和十一年度～十五年度	一〇三
（五） 昭和十六年度～二十年終戦	一四〇
（六） 終戦後	一八六
二 諸掛規程（明治四十年～昭和二十四年）	二一六
三 諸規程、細則、雑則	二二四
第二節 昭和のおもな出来事	二七〇
一 昭和初期～十五年	二七〇

(一)	創立五十周年記念事業(昭和四年十一月)	二七〇
(二)	始業式校長訓辞(昭和五年四月)	二七七
(三)	皇太后陛下行啓演奏会関連(昭和五年六月)	二八〇
(四)	思想問題関連	二八四
(五)	邦楽科設置関連	二九七
(六)	師範科卒業生に関する校長訓話(昭和十四年)	三〇五
(七)	創立六十周年記念行事(昭和十五年十一月)	三〇七
	国家行事への参加	三一四
(一)	大礼奉祝関連	三一四
(二)	紀元二千六百年奉祝関連	三一九
二 昭和十六年〜終戦		
(一)	軍隊の校舎使用に関する文書(昭和十六年七月、八月)	三三四
(二)	繰上げ卒業式校長式辞案(昭和十六年十二月)	三三五
(三)	入学者銜衝における外国語の取扱い(昭和十七年九月)	三三五
(四)	昭和十八年度修業年限の臨時短縮(昭和十七年十二月)	三三六
(五)	第五十五回卒業式における学校長式辞(昭和十八年九月)	三三八
(六)	金属類非常回収(昭和十八年十月)	三三九
(七)	学校長による壮行の辞(昭和十八年十一月)	三三九
(八)	昭和十九年度修業年限の臨時短縮(昭和十八年十二月)	三四〇
(九)	昭和十九年度入学試験	三四一
(十)	試業に関する注意(昭和十九年二月)	三四二
(十一)	学徒の軍事教育教化要綱(昭和十九年二月)	三四二
(十二)	入営または入団する学生生徒の取扱い(昭和十九年六月)	三四五
(十三)	学校工場化に伴う土地建物貸付(昭和十九年七月)	三四六
(十四)	官庁建造物の電線等の転用(昭和十九年九月)	三四七

(十五)	第五十六回卒業式における学校長式辞案(昭和十九年九月)	三四八
(十六)	学校建物借り上げ使用	三四九
	戦時下関連事項	三五三
(一)	学徒動員	三五三
(二)	陸軍軍楽隊への入隊	三七四
	三 戦後の収拾から新制大学へ	三九九
(一)	終戦直後の卒業式における学校長式辞(昭和二十年九月)	三九九
(二)	文部省との往復文書	四〇〇
(三)	昭和二十一年九月の教授会記録の一部	四〇六
(四)	文部省より女子生徒用夏服配給の文書(昭和二十一年九月)	四〇六
(五)	昭和二十二年一月の教授会議事録	四〇七
(六)	昭和二十二年二月の教授会議事録より学制改革案	四一〇
(七)	第五十八回卒業式(昭和二十二年三月)	四一五
(八)	戦後の住宅事情による校内居住の資料	四一五
(九)	第六十回卒業式(昭和二十四年二月)	四一七
(十)	「母校だより」(『同聲會報』より)	四一八
	戦後の学校行事	四二七
(一)	第一回芸術祭	四二七
(二)	創立七十年記念行事	四三六
	第三節 入試問題および関連資料	四四八
	一 明治末	四四八
(一)	入試問題	四四八
(二)	関連資料	四五二

二 大正年間	四五五
(一) 入試問題	四五五
(二) 関連資料	四六三
三 昭和	四七九
(一) 入試問題	四七九
(二) 関連資料	五〇八
第四節 調査研究、事業など	五五三
一 邦楽調査掛	五五三
(一) 邦楽調査掛概況	五五三
(二) 調査報告書	五八一
(三) 議事録	六一九
(四) 記譜法	六六〇
(五) 採譜	六九六
(六) 録音	七〇一
(七) 演奏会	七〇八
(八) 出版	七二四
(九) 図書展覧会	七三八
(十) 関係者一覧	七四六
二 唱歌編纂掛	七四九
(一) 参考資料一	七五〇
(二) 参考資料二	七七一
三 楽語調査掛	七八三
四 東京音楽学校出版目録(明治四十五年～昭和十七年)	八一九

五	東京音楽学校演奏および作曲によるSPレコード	八二一
六	東京音楽学校學友雜誌『音楽』	八五六
七	作曲依頼関係書類	九六一
八	第四臨時教員養成所	一〇五一
	(一) 第四臨時教員養成所の設置について	一〇五二
	(二) 第四臨時教員養成所の規則・カリキュラムなど	一〇五二
	(三) 第四臨時教員養成所の生徒について	一〇六一
	(四) 第四臨時教員養成所の職員について	一〇六三
	(五) 第四臨時教員養成所の思い出	一〇六五
九	上野児童音楽学園	一〇六九
	(一) 年譜	一〇七二
	(二) 関係記事	一〇七四
	(三) 校舎使用継続に関する書類	一一一八
	(四) 回想二篇	一一一九
第五節	教職員	一一二二
一	歴代校長	一一二二
	(一) 茨木清次郎	一一二二
	(二) 村上直次郎	一一二三
	(三) 乗杉嘉壽	一一二五
	(四) 田中耕太郎	一一六三
	(五) 小宮豊隆	一一六四
二	外国人教師	一一〇八
	(一) ハインリッヒ・ヴェルクマイスター Heinrich Werkmeister	一一〇八

(二)	ハンカ・ペツォルト Hanka Petzold	1113
(三)	パウル・ショルツ Paul Scholz	1119
(四)	グスタフ・クローン Gustav Kron	1121
(五)	マルガレーテ・ノトケ＝レーヴェ Margarete Netke-Löwe	1121
(六)	ヨセフ・カガノフ(レオニード・ロンヌスキー) Josef Kaganoff (Leonid Kochanski)	1123
(七)	シャーレス・ラウトルップ Charles Lautrup	1125
(八)	ロベルト・ポラック Robert Pollak	1129
(九)	レオ・シロタ Leo Sirota	1135
(十)	クラウス・プリングスハイム Klaus Pringsheim	1138
(十一)	ヘルマン・ヴーハーpfフェニヒ Hermann Wucherpfening	1144
(十二)	マリア・トル Maria Toll	1150
(十三)	パウル・ヴァインガルテン Paul Weingarten	1151
(十四)	アレキサンダー・モギレフスキー Alexander Moguirewsky	1161
(十五)	レオニード・クロイツァー Leonid Kreutzer	1165
(十六)	ヘルムート・フェルマー Hermut Fellmer	1172
(十七)	リア・フォン・ヘッセルト Ria von Hessert	1178
(十八)	マンフレッド・グルリット Manfred Guritt	1180
(十九)	ディーナ・ノタルジャコモ Dina Notargiacomo	1190

三 日本人教師 1192

鳥居 忱(三九)	幸田 延(三六)	小山作之助(三七)	橘 絲重(三八)	島崎赤太郎(三九)
頼母木こま(三九)	今井新太郎(三九)	安藤 幸(三九)	田村虎藏(三九)	神戸 絢(三九)
岡野貞一(三九)	楠美恩三郎(三九)	富尾木知佳(三九)	吉川やま(三九)	藤井 環(三九)
久野ひさ(三九)	中田 章(三九)	吉丸一昌(三九)	南 能衛(三九)	高野辰之(三九)
田村寛貞(三九)	本居長世(三九)	信時 潔(三九)	澤崎定之(三九)	立松フサ(三九)
萩原英一(三九)	高折宮次(三九)	小倉 末(三九)	宇佐美ため(三九)	眞篠俊雄(三九)
長坂好子(三九)	川上きよ(三九)	武岡鶴代(三九)	田中規矩士(三九)	梁田 貞(三九)
齋藤静子(三九)	福井直俊(三九)	澤崎 秋(三九)	遠山つや(三九)	片山頼太郎(三九)

木下 保(二三三) 橋本國彦(二三三) 宮城道雄(二三四) 井上武雄(二三四) 太田太郎(二三六)
 藤波重男(二三五) 浅野千鶴子(二三五) 中能島欣一(二三五) 岩崎吉三(二三六) 城多又兵衛(二三六)
 平原壽恵子(二三六) 山田抄太郎(二三七) 伊藤武雄(二三七) 黒澤愛子(二三七) 遠藤 宏(二三七)
 下總覺三(二三五) 細川 碧(三四六) 水谷達夫(三四六) 中村ハマ(三四六) 金子 登(三四七)
 柴田睦陸(三四七) 鈴木正三(三四七) 山本 力(三四七) 酒井 弘(三四八) 中山富士雄(三四八)
 秋元道雄(三四八) 池内友次郎(三四九) 宅 孝二(三四九) 野邊地瓜丸(三四九) 長谷川良夫(三四九)
 矢田部勤吉(三五〇) 田村 宏(三五〇) 梶原 完(三五〇) 畑中良輔(三五〇) 田尾一一(三五〇)
 伊藤 裕(三五二)

第六節 敷地建物の変遷 一三五二

第七節 新聞雑誌などに見る東京音楽学校関連記事 一三七六

一 大 正 一三七六

二 昭 和 一三九三

第八節 東京音楽学校を語る 一四八七

一 聞き取り調査による記録 一四八七

二 『同声会会報』その他より 一五二二

三 『回顧特集号』より 一五三五

卷末資料 東京音楽学校職員一覧および在職年表 一五四二

一 東京音楽学校職員一覧 一五四四

二 東京音楽学校職員在職年表 一五八三

口絵卒業写真資料 二

参考文献 一

人名索引